

2022年4月5日
(改定日：2022年5月6日)

お客様各位

株式会社セゾン情報システムズ
HULFTテクニカルサポートセンター

Spring Frameworkの脆弱性による弊社製品への影響について

拝啓

平素より、テクニカルサポートサービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。
2022 年 4 月 1 日に公開された Spring Framework の脆弱性（CVE-2022-22965）による
HULFT 及び関連製品の影響と対応方針についてご報告をさせていただきます。

敬具

-記-

各製品については、最新バージョンの対応について記載をさせていただいております。
また現在調査中の製品につきましては、調査完了後に本文書を更新することでの告知とさせていただきます。

■HULFT/HULFT Manager

本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、影響はありません。

■HULFT Script

本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、影響はありません。

■HULFT-WebFileTransfer

本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、影響はありません。

■HDC-EDI Base/HDC-EDI Apex/HDC-EDI Manager

HDC-EDI Manager については、Spring Framework を使用しておりますが、JDK9 以上の
環境をサポートしていないため、本脆弱性の影響は受けません。

その他の HDC 各製品には、本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、
影響はありません。

■iDIVO

本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、影響はありません。

■HULFT-WebConnect

Spring Framework を利用しておりますが Web アプリケーション(WAR ファイルとしてパッケージ化)としての利用はないため、本脆弱性の影響は受けません。

■HULFT IoT

Spring Framework を利用しておりますが Web アプリケーション(WAR ファイルとしてパッケージ化)としての利用はないため、本脆弱性の影響は受けません。

■DataMagic

本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、影響はありません。

■SIGNAlert

本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、影響はありません。

■HULFT-HUB

本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、影響はありません。

■DataSpider Servista、DataSpider Servista with Software Protection

Spring Framework を使用しておりますが、JDK8 の組み込みであるため、本脆弱性の影響は受けません。

■DataSpider Cloud

Spring Framework を使用しておりますが、JDK8 の組み込みであるため、本脆弱性の影響は受けません。

サービス基盤部分は本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、影響はありません。

■PIMSYNC

本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、影響はありません。

■DataSpider BPM

DataSpider BPM 2.6 では Spring Framework を使用しているため、本脆弱性の対象環境に該当します。

※2.5 以前のバージョンは JDK8 の組み込みであるため、本脆弱性の影響は受けません。

本脆弱性への対応として、修正パッチのリリースを予定しております。

(リリース時期は未定です。)

■Thunderbus

本脆弱性の発生要因となるモジュールは使用されていないため、影響はありません。

■HULFT DataCatalog

Spring Framework を利用しておりますが Web アプリケーション(WAR ファイルとしてパッケージ化)としての利用はないため、本脆弱性の影響は受けません。

※備考

[該当の脆弱性情報]

JPCERT/CC

Spring Framework の任意のコード実行の脆弱性（CVE-2022-22965）について
<https://www.jpcert.or.jp/newsflash/2022040101.html>

【改訂履歴】

2022 年 4 月 5 日	初版作成
2022 年 4 月 13 日	HULFT DataCatalogの調査結果を反映
2022 年 5 月 6 日	DataSpider BPMの調査結果を反映

以上